

西宮市子ども・子育て会議

第16回 評価検討ワーキンググループ

会 議 録

■日 時：令和2年12月21日(月)

■場 所：西宮市職員会館3階 大ホール

会議次第

議事

- (1) 子ども・子育て支援プランの評価について

会議概要

議事(1) 子ども・子育て支援プランの評価について

①重点施策4 妊娠期から乳幼児期の子育てへの支援

○委員 2点あります。

産前産後うつなど産前産後のケアについてはかなり関心が高いようで、12月市議会でも複数の議員の方から質問があった。そうした中で一番懸念しているのが、こうしたコロナ禍において、今年度は実際に誰かに会ってとかどこかへ行ってという対応が難しい、最低限の行動様式の中でやっていくとなったときに、1つ目は質問ですが、やはり産前産後、特に産前からの関わりという意味では、産科医との連携が一番大きなポイントになってくると思う。文中では医療機関と協力しながらと書いてあるが、そのあたりで市のほうは実際にその場所に足を運んで何かをしたりとか、そういうことをされているのかをお聞きしたい。

2つ目は、対面したり電話することが今の若い世代の方にはハードルがかなり高いと思う。こうした中で、これは重点施策5にも関わるが、「みやハグ」のことが紹介されていたり、SNSアプリを進めていくとあったが、何かぱっと相談できるような窓口や、それが電話ではなく簡便な形でもできないのか、もしくは情報共有が簡単にできたりする工夫が必要だし、ましてや、コロナ禍では待ったなしの状況になっているのではないかと思う。これは重点施策5での中心課題になるかもしれないが、SNSの研究を進めると言われているが、これは産前産後も同様だと思うので、そのあたりで何か工夫されているのか。今はLINEアプリでごみの相談もできるようになったと聞くので、同様のことを子育て支援の部分でも何かしているのか、お聞きしたい。

●事務局 1点目の産科医との連携については、産後ケア事業を平成30年12月から始めているのだが、その前にも市内の全出産医療機関を回っており、産婦健診をこの10月から開始する前にも全出産医療機関を回っている。ただ、出産医療機関以外にも妊娠中の経過観察をされている先生方もおられるので、それ以外に、先ほど説明した支援ネットという、気になる方が受診されたときに医療機関から市のほうにご連絡いただくシステムがあるので、そのシステムをもっと活用していただけるように、出産を扱っておられない医療機関にもご連絡ををお願いしているところである。

2つ目については、対面はハードルが高くて、電話だと低いのかと私たちは思っていたが、電話もなかなか厳しいものがあるようなので、今後の検討課題と思っている。コロナ禍においては、面接ができないので、少しハードルが高いかもしれないが、オンラインでの相談を進めていこうと既に10月から取り組んでいる。ただ、SNSのほうは、「みやハグ」を含め、今後の市の状況に応じて検討していく予定でいる。

○委員 産後うつの問題については、世界的にかなり重要視されている部分でもあるので、特に今年度の社会的状況を受けて、この数値が悪化していくことは予測されると思うので、十分な調査と新たな対応策をぜひ検討していただきたい。

アプリなどについては、また重点施策5でお話しさせていただく。

○委員 産前産後のケアでいろいろと対策がとられているが、これらは母子健康手帳の交付時や申請された後の相談やケアになると思うので、それまでの、妊娠しているかどうか分からない、どこに相談していいか分からない、誰に聞いていいか分からないという状態の方もケアできるようなシステムも、一緒にあれば、より多くの人助かるのではないかと思うし、多くの子供の命も救えるのではないかと思う。SNSなどの研究をされるときに、そういう人も救えるようなものであればと思うので、よろしくお願ひしたい。

○委員 昨年度のWGでも出た話題だと思うが、別冊資料の6ページにワンストップの相談体制を検討していくと書かれているが、その後の進捗はどうか。

もう1つは、今は個人情報の管理がなかなか難しくなっていて、出産に関わるようなことや個人の相談事で保健所が把握していることをコンシェルジュが情報共有していいのかどうかという問題がある。コンシェルジュの場合は部局外の方もおられると思うので、そのあたりとの情報共有のあり方をどのようにクリアして連携をとっていかれるのかを教えてください。

●事務局 コンシェルジュがワンストップで対応できるということだが、やはり個人情報の問題が大きなハードルになっていて、民間事業者が入っている現状の子育てコンシェルジュで、月1回、連絡会議を行っているが、詳細な部分についてはまだ共有できていないところがある。本当はもっと深く連携していきたいところだが、現状はできないので、これが今の大きな課題と認識していて、今後の体制のあり方も含めて考えていかなければいけないと思っている。

ただ、細かい情報は共有できない中でも、大きなところでの共通した認識や方向性は確認しながら進めているので、市として大きなところは4つの事業所で連携できているものと考えている。

ワンストップというところは、個人情報の問題があってもなかなか完全に一致しての対応はできていないのだが、スペースなどを考えて可能な限りできるように検討を進めている。

●事務局 追加で説明する。

ワンストップという形では、各コンシェルジュに相談されれば何でも乗っていただけの状態にはなっていると聞いているので、まず本人から聞く中で必要があると

なれば、保健師のほうに連絡していただければ、一緒に相談に対応するし、内容については、ご本人の理解が得られればお伝えすることができると思う。ただ、ご本人のご了解がいただけない個人情報についてはやはりなかなか難しいところがあるので、その部分については、こちらにバトンタッチして、こちらのほうでの支援という形での連携の仕方があると考えている。

○委員 追加でお聞きしたいのは、健診の際にコンシェルジュの相談コーナーを設けることは実施されていると理解でよいか。

●事務局 今、検討していく段階だと思う。北部のほうが特にどうかと思うのだが、会場の広さの問題や、健診会場の中での煩雑さがあるといけないので、特にコロナ禍で混乱しないような形での設置を検討している。

○委員 例えば虐待関係だと、まず個人情報のことについては、それを超えて情報をやりとりして連携をとるというシステムになると思うが、産前産後のところについても何らかの工夫が必要であれば、場合によっては条例を改正しないと対応が厳しい場合があるのではないかと懸念している。これまでもいろいろな手段で既に対応されていると思うが、全体として市当局が動きやすいようになればいいと思っている。

そういった形で、ハイリスクとは言えなくても、いろいろな情報共有する形をつくってもらえたらと思っている。これは意見ではないが、特に今年は保健師がもつのかなという不安があり、保健所が大変だと思うので、それも含めて、大変だと思うが、よろしくお願ひしたい。

○委員 育児支援家庭訪問事業の延べ利用世帯を見ると、平成28年度から令和元年度にかけて非常に増えている。これは、告知の方法など、何か特別に増える要因があったのかお聞きしたい。

また、具体的に利用されている人たちはどういう感じの方なのか、分かる範囲で教えてほしい。

●事務局 昨年度にホームページを若干修正し、その影響もあって利用者が増えたのかと思うが、ここまで増えるとは予測していなかったもので、これ以上に何か要因があるかどうかはこちらも分かりかねているところである。

利用されている方は、すべてと言っていいぐらいだが、ご夫婦と子供の家庭で、特に問題があるから利用されているわけでもなく、ご両親が近くにいなかったり、ご両親も働いておられたり高齢であったりして、産後の手助けができないという方に対してヘルパーを派遣している。

○委員 すごく増えていることはいいことだし、特に周りに身寄りの方がいない方の話は結構私の耳にも入っているが、実際にこれがあることをまだ知らない方がいる。市政ニュースなどには掲載されていなかったのだが、もっと周知できる方法があるといいのではないか。

②重点施策5 子育ての不安・負担の解消

○委員 先ほどの質問にもつながるが、西宮市としての公式なところでは「みやハグ」が情報提供の機会になっていると思う。「みやハグ」を始めてから2～3年たって、利用者アンケートなどをとりながら改善に取り組んでいるのか。また、どのような情報提供の形がいいかという点で、ほかのSNSとの連携などがなされているのかをお聞きしたい。

また、22ページに子育て支援のネットワーク化と書かれているが、私の携わっている合同での研修や意見交換が大きなものにつながっていくと思う。子育て支援連絡協議会のほうでも、今後研修などを強めていこうと考えているのか。再検討を行うと書かれているが、このあたりについての今後の計画も聞かせてほしい。

●事務局 1つ目の「みやハグ」については、平成29年に開発されて、丸3年を終えたところである。平成30年度中に利用者にアンケートをとり、再度開発を加えて、現在、新規の利用者も増えてきていて、評価はされているところだが、費用対効果も含めて、今後のあり方について見直していく必要があると考え、新しくLINEなども含めた形での連携というか、そちらの形への統合も含めて今検討を行っているところである。その中で、情報発信のあり方、また、そこでの相談を受ける機能を追加していくといったことも将来的には検討していきたいと考えている。「みやハグ」は5年間を一つのくくりとした事業者との契約になっていて、令和3年度をもって区切りになるので、4年度からの展開に向けて、よりよい形の検討を行っているところである。

2つ目は、子育て支援のネットワーク化のところでの地域子育て支援拠点事業連絡協議会の中での研修や会議などの進め方の検討だが、今、事業者に対して、このコロナ禍でもどういふものを望まれているのか、情報交換なのか研修的なものなのかということアンケートで意向を確認しているところだ。

ご指摘にあった、地域子育て支援拠点事業連絡協議会が年1回で、これで果たして連携ができていいのかというご意見はごもっともだと思う。ただ、全体で集まる機会としては1回だが、そこは子育てコンシェルジュがまめに市内全域を巡回してつなげていく努力は継続して行っているところである。今後、この1回についても、回数も含めてどういった形がいいのかの検討を行っているところで、何らかの形で結論を出して進めていきたいと思っている。

○委員 1点目については、ぜひそのように進めていただきたいと思う。

2点目は、実際にはコンシェルジュがそれぞれのひろばや事業者を回っているのをよく存じている。そこで顔と顔がつながり、点と点がつながって線になっている部分があると思うが、これを西宮市として面にしていくようなつながりも大事だと思う。事業者の方にもいろいろな意見もあると思うが、そのつながりをもっと広げて生かしていけることを願っているので、ぜひよろしくお願ひしたい。

○委員 まず、子育てひろばは、数を増やしていただいていることは評価したいと思う。ただ、利用児童数が減っているのは、今もおっしゃったように、働く人が本当に増えているからだ。私たちのような転勤族のサークルでも、10年前、5年前

と違って転勤族の妻であっても働くような時代になっている。そういったときに、子育てひろばが、従来のまま主婦と子供に対する施設であれば、保育所や一時預かりを利用しながら働いている人に対しての子育てひろばのあり方というか、そういう人たちこそもう少し手厚く相談に乗れる場があったほうがいいのではないかと感じている。数を増やすのはいいのだが、土日や夕方から夜にかけての時間帯においてももう少し手厚さがあったらいいのではないかと思う。事業者の方やひろばを運営されている方の負担もあるが、数だけではなく、内容やいろいろな形が子育てひろばの拡充の中でももう少し盛り込まれてもいいのではないかと、実際に親御さんたちと接して感じている。孤立化を防ぐ仕組みの拡充というところでそういう考えはないのか。

2点目は、ネットワーク化のことだが、子育てコンシェルジュと地域のNPOや私たちのような団体が、コンシェルジュと団体という一対一の関係はつくられているし、私たちもお世話になったり、半年か3か月に1回ぐらいは回ってきてお話を聞いていただくというか、私たちの団体に所属している人にお話を聞きに来ていただくことはすごくしていただいているとは思っている。しかし、大事なものは、ふだんいろいろな相談に乗っている支援者に対して、実際に研修的なものがない。一対一で「こういう人がいますよ」と言うことはあっても、私たちももう少し学びたいことがあったりするし、そのときには出てこなかったことでも、実際に相談されたときにどのように答えたらいいのかと思うことがある。こういうものはすべてコンシェルジュに上げてくれればいいと思われているかもしれないが、そのときそのときのこととはなかなか難しく、どこかでプロにつなげばいいだろうとは思っているが、なかなか難しいところがある。線ではなく面でというか、もう少し地域連携の取組みについて、私もこの子ども・子育て会議に出席するようになってから常にお話ししているが、一対一ではなく、子育て支援者同士のつながりが必要だと思う。これは自分たちでやらないといけないことだとは思っているが、施策の中でネットワーク化とあるので、もう少しコンシェルジュも、線で会うのではなく、皆さんを集めてつなげていただくこともしていただけないかと感じている。

そこで、来年度以降、どう考えていらっしゃるかをお聞きしたい。

●事務局 1点目の子育てひろばについて、数も一定整備されてきて、現在21か所で、22か所を目指しているが、土日や時間帯の拡充については、今回の整備にあたっては言われていたところで、目指していかないといけない非常に大きなところだと認識している。

土曜日については、児童館自体は土日も開いているが、子育てひろばは月～金なので、今年度から、まずは全児童館での子育てひろばを土曜日10時～15時に開けることにした。そうしたところから土曜日、日曜日も開いているひろばを増やしていく方向で今後進めていきたいと考えている。

時間帯についても、一律にお昼の時間帯だけでなく、遅い時間帯も意義があると思っているので、今後、事業者とも調整しながら進めていく方向で考えているが、少し時間をいただければと思っている。

2点目のネットワーク化では、子育てコンシェルジュとの連携について、確かにコロナ禍でもコンシェルジュがひろばや地域サロン、子育てサークルに出向いているので、支援者の方との一対一の関係はできていると思う。ただ、支援者同士をつないだり、支援者同士が集まるところは、特に今年度はコロナのことがあるので、そうした動きができていなかったことは反省している。方向としては、以前に甲東地区で地区別交流会を開いて、担当地区保健師と地域の子育てひろばの支援者が集まって顔合わせをして、支援者同士が交流して、そこに子育てコンシェルジュが連携した実績があるが、それを今後、いろいろな地区で広げていきたいと思っている。それを計画的に進めていき、まずは点から線、線から面へと、そこをしなければ、本当の意味での全市での子育て支援が繋がっていかないと認識しているので、その取組みを強化していきたいと思っている。

子育て支援者への研修については、子育て総合センターのほうで、回数は限られているが、そういった方を対象とした支援者研修も行っていて、ひろばなど支援者の方にお声かけはしているところだが、そういったところも周知をしっかりとしたいと思っている。

○委員 コロナ禍でできなかったと思うが、一度、あおぞら館のサークルの代表者にアンケートをとられたときに、私のほうからもズームでもできることをお伝えしたのだが、そういう一歩がなかなかハードルが高いところがあると思う。多分やろうと思えばできることもあると思う。来年度もこのままコロナ禍は続くと思うが、民間のほうにもいろいろご相談いただいて一緒にやっていけばいいと思うので、そのあたりをご検討いただければと思う。

○委員 今のお話と通じるところもあるが、児童館9館で土曜日も開けているとおっしゃったが、それは市内で9館である。私どもが考えているのは小学校区に1つ、小学生、中学生が集える児童館的な場所が欲しいというのはなかなかかなわない。一方で、放課後事業のほうもぽつぽつと始まっているので、これからも時間も延長して開きます、事業者の方と検討しますとおっしゃるが、例えば放課後事業のほうとの連携や、大きく捉えてみれば、何年か後には小学校区全部にコミュニティ・スクールを導入するわけだから、部署を超えてコミュニティ・スクールのほうでも子育て支援、放課後事業を連携してやれば、人材も活用できると思う。子育て支援は子育て支援だけで小さな枠の中で一生懸命やろうとするのではなく、大きな意味で子育てに携わっていただきたいが、そのあたりの計画は今後考えているのか。

●事務局 児童館は9か所だけで、放課後施策のほうは再開の動きもあると聞いているが、9館だけでは全市をカバーすることは当然できない。児童館として教育委員会の全市的な動きの中で連携してというところでは、今後そこが重要になってくると思うし、むしろそちらのほうにアウトリーチという形で力を発揮していけたらと思っている。子育てひろばや児童館など既存の施設だけでなく、コミュニティ・スクールなどのそれ以外の手法も活用して、全体として子育て支援ができる形は今後望まれる形であると私も思っていて、今後、もちろん進めていきたいと思っている。

○委員 1つは先ほどの子育てのネットワーク化の話だが、コンシェルジュと地域の子育てグループとの連携は最近かなりできてきたというお話だったが、それがもっと双方向になればいいと思う。さらに地域グループ同士のつながりもという話だったが、このコロナ禍で、特に北部では、来所されての保護者の相談は警戒されて減っているが、逆にアウトリーチとして地域の子育て支援のグループのほうに出ていくと、子育てグループの方々が直面していることについていろいろご相談を受けて、そのことについてコンシェルジュも一緒に解決方法を考えることが増えてきている。どうやってそういう人たちを支えるかについての研修もそうだし、ケース検討も個人情報分からないような形でネットワークとしてやっていくというところを、このコロナ禍で見えたことでもあるので、もう少し力を入れていただけたらと思う。それも、全市一斉ではなく、多分地域ごとだと思うが、進めていただけたらと最近実感している。

もう1つは、直接来館される方が少なくなってきたというところで、とても心配している。「みやハグ」の話も出ていたが、保護者の方が頼る情報はほとんどSNSからという状況なのに、西宮市はそこに後れをとっているような気がする。私も「みやハグ」を大分前から入れているが、情報の発信だけで双方向ではなく、例えばイベントのお知らせは来ても、そこをクリックして申込みまではできない。今や、情報を見たらそこで申し込めるようになっていたので、その部分がとても後れていると思う。保護者の方が今活用しているICTの技術やSNSと比べると随分と利用価値が低くなっている感じがする。このコロナ禍はいつまで続くか分からないから、直接支援が必要な方々のためにも急ピッチで検討して進めていただければと思う。

○委員 先ほど甲東地区で実際に子育てひろばの方などが集われたというお話があったが、その結果、いいことを聞きたいので、せっかくやられた地区のことをいい事例として伺ってみたい。

●事務局 平成30年度に甲東地区の担当保健師と段上児童館と子育てひろばが集まった。ひろば同士は全く交流もなく、どういう方がおられるのかも知らない仲であったし、保健師とも点と点でして、皆さんが一堂に会して話をする機会がなかったので、そういうところをきっかけに、一段距離が縮まったかと思う。

その後の具体的な効果については、私には分からないところがあるが、確実にそれ以降の連携というか、同じように運営していく中でも、支援者の心理的な負担感などについては、何か困ったら隣のひろばに相談できるとか、そういった効果は非常に大きいと思う。実際に支援者自身は、自分たちで完結させないといけないみたいな、そのことで支援者の負担がかかるようであれば、それはだめなことだと思っているし、まずはそのところが軽減されるように、支援者が楽に支援できるようにと、こういった取組みをもっとほかの地区にも展開していかないといけないと思っている。今年度は、もしコロナがなければ展開できればと思っていたところはあがるが、ぜひ進めていきたいと思っている。

○委員 IT化やアプリの充実もちろん大切だが、こういうコロナ禍で小さい

子供を抱える親御さんとお話をすると、オンラインではだめだ、やはり会いたいと言われていた。今の甲東地区の方々は、明らかにそれで地域力も上がったと思う。それぞれの地区でそれぞれの地域力を上げていくことは進めていってほしい。

③重点施策 8 ワーク・ライフ・バランスの推進

○委員 先日、男女共同参画センター「ウェーブ」に足を運ぶと、濃い紺色の冊子で「お父さんのための育児」が山積みされていて、中身を見ると非常によかった。

子育て総合センターの親子サロンや児童館、ほかの場所にも置いていただけないのかお聞きしたい。自由に持って帰ることができるほどの冊数は作成されていないのか。それとも、小さい子のお父さんは皆さんお持ちなのか。

●事務局 これが父子手帳と言われているものである。前回バージョンまではお父さんの顔が全面表紙になっていたが、通勤や電車の中で読むのが恥ずかしいという話があり、分からないようにというか、スマートな感じで見直しをした。基本的に児童館や支所の窓口など、いろいろなところで配布していると思うが、もし行き届いていないところがあれば、そこは十分に作成しているので、配置したいと思う。

●事務局 母子健康手帳をお渡しする際に全員にお渡ししているので、お父さんはお持ちだと思う。

○委員 それが父子手帳だとはリンクしていなかったが、中身は非常にいいもので、支援者の方にも手にとってもらえたらと思うような内容だったので、機会があれば皆さんもご覧になっていただければと思う。

○座長 お父さんが表紙になっている昨年度の分はいただいた。そこから内容的には変わっているのか。

●事務局 ご意見をいただいたのが発行の間際で、2年に一度発行しているので、そのところは、次回の令和4年度の発行に向けて検討していきたいと思っている。事務局としては、いただいたご意見はごもっともで、今や時代遅れではないか、父親が手伝うという考え方でどうするのかという厳しいご意見をいただいたと認識している。ただ、初めて子育てをしていくお父さんにとってみたら、本当に入門書という形で、これはこれで有意義な冊子になっていると思う。これで十分というわけではなく、表現も含めて、他市の状況も研究しながらいろいろ検討していけたらと思っている。

○委員 毎年のことだが、このワーク・ライフ・バランスのことは子育て施策の中では非常に浮いた感じになっていると思うのは、ほかの部分は行政としての様々な公助や共助の仕組みをつくっていきこうというところがあるが、ワーク・ライフ・バランスの部分のみ、自助努力を促すぐらいのことしかできないということで、これをここで表記する必要があるのかと感ずるところはある。ただ、国としてもこれを必ずしていくようにと求めているのは、世界の中で日本はこうした部分では後進国だという認識の上に立っていると思う。だから、この施策を進めていくにおいて

非常にハードルが高い部分もあるのではないかと思います、こういう分野のサークルなどで活動されている方を招いて様々な提案をいただいたり、施策決定において参考にする部分を得ていけばいいと感じている。例えば、ファザーリング・ジャパンという父の子育てを支援しているところがあったりするので、そういうところから提言を受けることも一つのアイデアかもしれない。

また、参考資料の69ページ以降に書かれているワーク・ライフ・バランスの推進も、コロナ禍で大きく変わってしまったのが、オンラインでの在宅ワークが急速に進んだり、会社のほうも、中小企業は難しいが、大手ではオンラインを使いながら出社しない形も含んで、郊外に住むことを推奨したりしているところもある。そういった世間の流れを含めて、このままの計画で令和6年度までいくのではなく、この69ページ以降は大きく改めることも考えておかないといけないのではないかと感じる。郊外に住むという働き方ができる企業がどんどん増えていくなれば、西宮市でも取り込んでいけるような場所や様々な施策をして、安心して父・母で子育てができるようなまちというイメージをつくっていったらと思う。

これは意見だが、そういったところで何か考えておられるところがあればお聞きしたい。

●事務局 市の方向性としてそういったことに取り組むことは、今のところ何か決定されたものがあるわけではないので、ここでご紹介したようなそれぞれの所管課での施策実施にとどまっていると感じている。そういったご意見をいただくことによって、そういう観点からも何か切り口が見いだせないか検討していきたいと思う。ぜひご意見などをお寄せいただければと思う。

○委員 10年前、20年前と比べたらお父さんの育児参加というのはすごく多くなったと感じているが、家で仕事をするお父さんが増えてきたことが、果たして本当に女性の育児負担の軽減につながるのかというと、私ども一般の主婦としては、夫が家にいることで決して育児の負担が減ったとは全く感じていない。テレワークが進んだからといって、それがイコール、いつでも「お父さん、これやって」と言ってやってもらえる状態ではないので、そのあたりは皆さんの共通理解としてはどうなのかと思う。私の家ではそうだが、ほかのお家はどうかお伺いしたい。

○委員 今、生活様式がこのように変わっているから、それに合わせた形で価値転移を促す仕組みをつくっていったほうがいいという趣旨の発言である。おっしゃるとおり、テレワークになったからといって全然仕事が楽になっていない面もあるし、通勤時間が減ったぐらいで、家庭が父・母で回り出したというのはそれほど聞いていないので、そこは言われるとおりでと思う。

○委員 関連して、逆に在宅で仕事をされるようになって、むしろこの問題が顕在化している、見えてきていると思う。例えば、専業主婦の方にとっては余計な仕事が増えて、男女の役割分担はどうなっているのか、子育てのお互いの役割はどうなるのかというお話が顕在化している、家庭での家事・育児だけをされている方の不満も大きくなっているし、あるいは2人とも働いていて、家庭でオンラインで仕事をする場合でも、やはり女性が家事・育児の負担を多く担っているわけで、かな

り顕在化しているというお話があって、そういうことが社会的にいろいろ注目されて、SNSなどでも議論されたりしている。ファザーリング・ジャパンなど、ワーク・ライフ・バランスの先進的な取組みをしているNPOや団体がいろいろな自治体などを支援しているので、それこそここにある施策を見ると、そういうところにもいろいろ支援してもらいながら取組みを広げていくという発想の広がりみたいなものが必要なのかと思う。ワーク・ライフ・バランスの推進に向けては、事業所だけではなく、家庭の中での意識の転換をどうしていくかも大きな課題になっているので、そういう先進的な取組みで問題化しているところを支援しているグループに講演会をしてもらうなり、啓発活動のお手伝いをしてもらう、あるいは施策についてアドバイスをもらうこともいいのではないかと思う。

④コロナ禍における各施設の対応状況・子育て支援施策の取組状況

○委員 給付関係が様々あったのですが、施設に戻すものは別として、こういったもので国の施策を超えて市独自で行ったことや強調点はあるか。

●事務局 3ページの上から2段目、児童扶養手当受給者への臨時特別給付金は、市独自の施策で、6月に給付を行っている。その2つ下の、ひとり親世帯臨時特別給付金とよく似ているが、こちらは国の施策で、全国一律の制度である。

給付関係では、ここに記載している分ではこのあたりだと思う。

○委員 1点確認というかお願いだが、育成センターの対応で、公設民営のところと民設民営のところでは、4月7日から5月31日のときの対応が違っていたと思う。今後、このような一斉閉鎖があるかどうかは分からないが、保護者としては、どちらも同じような対応をしていただけないものかという希望というか、もしくはこういうことが起こったときはどうなるのか、もし考えがあれば聞かせてほしい。

●事務局 本日、育成センターの担当の者が出席していないので、同じような対応をしていただきたいというご要望があったことをお伝えしたいと思う。

○委員 3ページの下から5行目、妊産婦のオンライン相談について、コロナの中で不安な方に対して、ズームでもされていることは初めて知ったのだが、妊産婦に対しての広報や、ズームを利用して相談された方の人数が分かれば教えていただきたい。

●事務局 このオンライン方式は10月からの開始なので、まだ利用された方は1名である。広報が行き届いていないと思うので、何かの面接の機会などでPRしているところである。ホームページや母子健康手帳の交付時には周知はしているので、ご確認いただければと思う。

⑤総まとめ

○座長 最後に追加でご意見があれば発言していただきたい。全体的な計画に対するご意見でも結構なので、お出しいただきたいと思う。

○委員 お願いになるのかと思うが、2点ある。

先ほどから出ている、どこに相談すればいいか分からないという点だが、これは、実は私、午前中に自立支援協議会のこども部会のグループの会議に参加していたのだが、赤ちゃんが障害を持って生まれて、本当に不安でたまらないときに、どこに相談したらいいかという悩みがある。やはり未来センターだと思うが、継続的にここに電話したらこの人に相談できるということが非常に大事だと思うので、ぜひそのようなことを西宮市で取り組んでいただきたい。

もう1つ、お父さんの参加だが、実はこちらの園にはひとり親のお父さんがいらっしゃる。一生懸命仕事をしながら子育てをされているが、分からない部分もおありだろうと思う。そうすると、日中のいろいろなプログラムがあったとしても、ひとり親で頑張っているお父さんに対しての支援というかプログラムも考えていただけたらうれしいと思いながら、先ほど少しもやもやしながらか聞かせていただいていた。そろっているところばかりではない、障害をお持ちですごく孤立感を持っている方がいる、そのあたりに目を留めていただくとうれしいと思い、どこで言おうかと思って最後にした。よろしくお願ひしたい。

○委員 私は民生委員として、このコロナ禍で赤ちゃん訪問をしている。私たちの活動は本当に小さなことだと思うが、今はコロナなのでインターホン越しにと言われているが、出てこられた場合は面談する。たとえインターホン越しであれ面談であれ、お母さんのお話で和むこともあるし、少しでも力になればと思っている。市としても、民生委員が動きやすいように、コロナのことを考えながらいろいろと施策をしていただいている、私たちが助かっている。

先ほどから産後うつのお話があった。実はこちらの地域にもそういう相談があった。担当民生委員が少しでもお手伝いできるような形にしているし、そういう私たちでできることをしていきたいと思うので、情報出せるものは入れていただきたいと思っている。

これはささいなことだが、民生委員も頑張っていきたいと思っているので、皆さんの知恵をもっといただければありがたいと思っている。よろしくお願ひしたい。

○座長 決してささいなことではない。そういう力が合わさって、それぞれで活躍してくださることをどうつなげていくかが一つ重要になると思う。

昨年、子育てコンシェルジュの方と評価委員の何名かの方に集まっただき、直接お話をする機会を持った。そのときのやりとりで出てきたのが、地域の人材をどう生かしていくかが重要で、そのつなぎ役としてコンシェルジュが活躍して下さったらとてもいいという話になった。そういう面で、コンシェルジュの方には期待しているので、このコロナ禍においていろいろ制限はあるが、逆にだからこそやはり大事だと思えるところと、新たな生活様式と言われているように、変えていか

なくてはいけないところなど、私たちはすごく求められていると思うので、本日は様々なご意見、ご感想をお伺いできたのではないかと思います。私たちも柔軟に対応していくが、ぜひとも市としても、ニーズや本日の意見も生かしていただいて、施策を進めていただけたらと思う。

○委員 数値のことをあまり言いたくないが、産後ケア事業などで利用者数が63名であったり、延べ訪問件数が198件であったり、父子対象事業のパパDay 10回168人参加という、この数字だけを見ると、西宮市の出生数は3,700人ぐらいが生まれていると思うので、単純計算ですが、産後ケアにおいては1.7%ぐらいの利用者、パパDayは4%ぐらいの方が利用していることになる。利用してほしい対象の方々は水面下にたくさん埋もれていると思う。まだまだ西宮市が追いついていないことを一挙に進めるのは難しいと思うが、西宮市が強いところもある。例えば、子育てひろばにおいては6,000人以上が参加されていることは非常に高いといつも感心している。子育てひろばにはたくさんの親子が行きたがっているとすごく感じる。これを、例えば土日はパパだけの子育てひろばにするとか、そこから引き出してパパを連れ出したり、お母さんたちにも自分の時間を与えてあげるとか、何かしら強いところをもう少し引き出せるようなことでもしてみればいいのではないかと感じた。

○委員 この評価検討WGでは一つ一つ評価することを最初に確認したが、やはり一つずつ項目を評価した後で、全体の計画がどうだったかとか、私たちが思っていた理念に沿って一つずつの項目ができているのかという全体的なことも評価しないといけないのかなと思っている。重点施策6と7は別のところでの審議になるので、その報告も受けた後で、全体会議でもいいと思うが、この計画はどうだったかを振り返る機会があればいいとは思いますが、いかがか。

●事務局 今回WGでご意見をいただいた後で、それを取りまとめたものを全体会議でご報告する機会がある。その際には社会福祉審議会でのご意見なども含めて報告できたらと思っている。このコロナの関係で全員が集まれるのかとかいろいろあると思うが、毎年の評価としてはそのような形を考えているので、ご指摘のような形は考えている。

○委員 感想に近いものになるが、今回の評価の形が変わって、前回までは自己評価していただいたものについてすべて評価していたが、今回は我々の気になったところしか意見を言っていないので、これで相対的にきちんと評価できているかどうかだ。時間のこともあるし、我々の知識や専門分野のこともあって申し訳ない部分もあるので、これが市全体の施策に反映されていくものであれば、この形で進めていくのは本当に心苦しい部分も出てくるのではないかとということが気になっている。

2つ目は、自己評価はそれぞれの担当課でしていただいていると思うが、いわゆるアセスメント、分析のありようについて、自己評価のみでなく、何らかの学識経験者の方などの意見をもらいながら訂正していくようなことが、この子ども・子育て会議以外のところでも担保されないと、抜けがあったり、もっと深いところに課

題があったり、今はないが、これから先に予見されるような課題に対しての対応が遅れていたりするのではないかと思う。日本では少子高齢化が大きな問題になってくるし、そうした中で人口動態が変わってくる中で、西宮市はまたそれとは違う動向もあるので、そのような検討は子供支援総務課が中心にされていると思うが、そうした分析の部分も重視しながら、その中で意見をもらえるような場としてこのようなところを活用していただいたほうがいいのではないかと感じている。

3つ目に、この中で私が一番怖いなと思っているのは、国も、ひょっとしたら市もそうかもしれないが、財政的にかなり厳しい中で今を乗り切ろうと、とにかく今資金を投入するという流れがある中で、将来的にそのような資金が投じられない状況になったときに、私たち福祉分野の中で一番考えなければいけないのは、人の不足の中で何でも公助、行政がやっていくという仕組みはもたないのではないかと考えている。そのために、様々なNPOや、ここでも転入者のために活動されていたり、いろいろな団体の方がおられるが、そういった民助というか共助の仕組みをどのようにつくっていくかも含めて考えていかないと、出された施策に対してもっと市のほうがこうしてくれと言うだけでは正直もたないし、現実的に難しいだろうなと思っているので、そういった部分も見据えながらやっていく姿勢は、市のほうもそうだし、私たち自身も持たないといけないと思っている。参考にしていただけたらと思う。

【委員出席者名簿 11名】

【事務局出席者名簿 6名】

所属団体・役職名等	氏名	所属・役職	氏名
関西学院大学教育学部 教授	橋本 祐子	子供支援総括室長	大神 順一
西宮市PTA協議会 副会長	岩本 佳菜子	子供支援総括室参事(計画推進担当)	安福 聡子
西宮市民生委員・児童委員会 理事	貴山 好江	子育て事業部長	伊藤 隆
西宮労働者福祉協議会 特別理事	久城 直美	子供家庭支援課長	岡田 良一
公募委員	久保 香	子育て総合センター所長	海部 康
西宮市青少年愛護協議会 苦楽園地区青少年愛護協議会 会長	佐藤 美由紀	地域保健課長	塚本 聡子
神戸YMCA	谷川 尚		
西宮市私立幼稚園連合会 理事長	田村 三佳子		
社会福祉法人ほっとスマイル 理事	東野 弘美		
西宮市私立保育協会 会長	藤原 和子		
転勤族ママ&キッズ探検隊 in 西宮 代表	松村 真弓		